

連合徳島ユースターNEWS

(2022年度 第1号)



去る2021年12月6日「2022年次総会」において新役員体制、活動計画他の承認をいただき、2022年度の活動が始まりました。(総会の報告他については、NEWS総会特別号をご参照ください)

以下、冬から春頃にかけての内容となりますが、以後の新メンバーでの活動につき、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2022年3月24日に開催されました「春季学習委員会」の研修レポートを掲載させていただきましたので、お楽しみください。

相変わらず、新型コロナ感染拡大の影響による制約を受けながらの中での活動を余儀なくされておりますが、創意工夫を凝らしながら、歩みを止めることのないよう、青年委員会一同、力を合わせて頑張っています！

【経過報告】

[①「第9回 生活困窮者越年支援ボランティア」(2021年12月27日～12月30日)]

- 労働福祉会館別館を会場として、期間中の事前準備(配布物品の仕分け等)および当日の配布活動につき、4名が参加しました。(今回が青年委員会としては初めての参画となりました)

[②「青年委員会 第1回幹事会」(2022年1月27日)]

- 今年度の学習研修会の方向性や具体的内容の協議、新たな取り組みとしての地域の魅力等に向けた情報発信企画の協議等を実施しました。

[③「2022春闘開始宣言集会・連合白書学習会」(2022年2月4日)]

- 宣言集会でのアピール対応および集会・学習会への参加により研鑽を深めました。

[④「第42回 部落解放・人権徳島地方研究集会」(2022年2月17日～18日)]

- 新型コロナ感染拡大の影響で、2月18日の分科会についてはWeb開催、司会対応は事前収録に変更となりました。

[⑤「2022春闘勝利総決起集会」(2022年3月4日)]

- 新型コロナ感染拡大の影響で集会は中止となり、青年委員会として対応不要となりました。

[⑥「青年委員会春季学習研修会」(2022年3月24日)]

- NPO法人「クレエール」にて開催され、幹事6名が参加しました。(詳細については研修レポートをご参照ください)

[⑦「徳島中央メーデー」(2022年5月1日)]

- 特別決議のアピール対応の予定でしたが、今年はウクライナ侵攻に係る内容に変更となり、国民運動局長での対応となりました。

その他、産別・単組を通じて案内を受ける労働関係セミナー他の各種研修についても、積極的に幹事が参加し、研鑽を深めております。なお、この期間中に幹事会メンバーの変更がありましたので、以下に新幹事の紹介を含め、ご報告いたします。

[文責:四国電力労働組合 小畑 文人]

【新幹事紹介(畠山氏より交代)】



〔2022役職〕
幹事(新任)
〔氏名〕
尾崎 海斗
(おざき かいと)
〔所属〕
JAM
(日鉄鋼管ファイン
チューブ労組)

今年度より青年委員会の幹事を務めることになりました尾崎です。

私自身、趣味がとて多く、たくさんの人たちとコミュニケーションを取る機会がとて多いので青年委員会の活動でもたくさんの方とコミュニケーションをとり活動していきたいと思っています。

また、新型コロナウイルスの影響で活動がうまくいかなかったりすることもあるかもしれませんが、皆さんで助け合って頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【2022年度 幹事会体制】

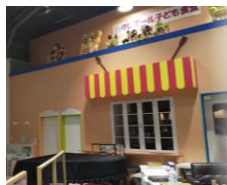
役 職	氏 名	構成組織
委員長	小畑 文人	電力総連
副委員長	松本 昂大	農協労連
事務局長	新居 一真	自治労
事務局次長	藤井 一記	電機連合
幹 事	吉岡 大地	全水道
幹 事	恵島 美奈江	UAゼンセン
幹 事	畠山 烈士	JAM (~1月末)
幹 事	橘 拓	J P 労組
幹 事	中藤 徹	全国一般
幹 事	河村 孝男	全労金
幹 事	宇山 大貴	交通労連
幹 事	岡久 駿	電力総連

幹 事	尾崎 海斗	JAM (2月~)
-----	-------	--------------

【青年委員会春季学習会レポート】

徳島市万代町の「万代ふ頭」の一角にあるNPO法人「Creer(クレエール)」。
スペイン語で「信じる」という意味のとおり、障がいのある人が社会の中で自立して働くチャンスを得て、お客さま、地域の人に喜ばれる仕事ができるという可能性を信じて共に努力を続ける、という信念の元に2008年に設立されました。

障がいのある人の就労の場として、お弁当製造販売を中心にレストランを運営するほか、IT、縫製、手工芸、芸術、スポーツ活動、地域交流事業など、幅広い分野の事業に取り組んでいます。



ボランティアスタッフ他の手による装飾等で、温かい雰囲気随所に溢れており、とても居心地が良くリラックスした状態で研修を受けることができました。

この度は、「子ども食堂」事業、「子ども食堂宅食便」事業のことを中心に、理事である喜多條雅子さんのご講演をいただきました。



今回の研修で、素敵な和装で講師を務めていただいたNPO法人「クレエール」理事の喜多條雅子さんです。
誠意を持って1人1人と向き合う姿勢、穏やかな中にも芯の強さを感じさせるお人柄、大胆さと慎重さを兼ね備えたエピソード等が印象的でした。(個人的感想です)
とても含蓄の深いお話をありがとうございました！

今回、研修に参加した青年委員会幹事会のメンバーです。
この研修での学びを周囲に伝えていくことと、クレエール様の取り組みに、今後も、青年委員会として継続して関わっていく決意をお伝えして、結びの言葉としました。



※研修資料他および今回お世話になったクレエール様の紹介記事等については、連合徳島HPに掲載しております。興味がある方は是非ご覧ください。

連合徳島ユースターNEWS

(2022年度 総会特別号)



【総会要旨報告】

2021年度は、昨年度に引き続き、新型コロナ禍での制約を受ける中での活動が続く中ではあったが、SNS等のツールの活用により、会議等でのコミュニケーション面での影響を最小限度にとどめ、WEB形式も併用しながらの研修会等への積極的な参加などにより、それぞれの知識の涵養、資質の向上に努めた。

会議の中では、各幹事から「ボランティア活動をもっと活性化しよう」、「地元徳島の魅力を掘り起こし、発信していこう」などの前向きな提案がなされ、今後、一層の魅力的な活動に繋げていく方向性が確認されていた。それらの経過を受け、

2022年度の活動計画として、2021年に引き続き、

**「紡いだ絆はどんな困難にも負けない。
変化を恐れず、新たなチャレンジを続けよう！」**

のスローガンを採択し、新型コロナ禍のような阻害要因下でも、新しく、前向きなチャレンジを継続し、人と人との「絆」を大事にしながら、充実した活動を目指していく方針が確認された。

具体的な進め方の中では、ボランティア活動や、ローカルな魅力発掘・発信等のテーマを意識しながら、SNS等のツールも活用しながらの積極的かつスピーディーな情報発信に努め、青年部活動全体の更なる活性化を図っていくことなどが確認された。

新型コロナ禍の先行きは、不透明な状況が続いているが、相互の「絆」を大切に、「ONE TEAM」の意識を持って、質の高い協力の元で諸活動を進めていくことを確認して閉会した。



連合徳島青年委員会2022総会



【2022年度 幹事会体制】

役 職	氏 名	構成組織
委員長	小畑 文人	電力総連
副委員長	松本 昂大	農協労連
事務局長	新居 一真	自治労
事務局次長	藤井 一記	電機連合
幹 事	吉岡 大地	全水道
幹 事	恵島 美奈江	UAゼンセン
幹 事	畠山 烈士	JAM
幹 事	橋 拓	J P労組
幹 事	中藤 徹	全国一般
幹 事	河村 孝男	全労金
幹 事	宇山 大貴	交通労連
幹 事	岡久 駿	電力総連



【2022役職】

委員長

【氏名】

小畑 文人

(こばた ふみと)

【所属】

四国電力総連

(四国電力労組)

【青年委員会代表メッセージおよび自己紹介】

昨年度に引き続き、委員長の任務を拝命しました小畑です。

総会の中でもお話をさせていただきましたが、青年活動の場は、目先の利害に左右されることなく、しっかりとしたコンセプトを持って、変化や失敗を恐れずにチャレンジすることを評価し、意図のあるチャレンジと、その結果の検証・改善のサイクルの中で、1人1人が、チームが成長していける場だと考えております。

連合徳島青年委員会は、そんな1人1人のチャレンジを引き出し、後押しし得るような、活動に関わって良かったと感じてもらえるような、前向きなエネルギーを持ったチームでありたいと考えております。

その環境づくりのため、私たち幹事会メンバーも最善の努力を尽くしますので、みなさんの力を貸してください！

現在の新型コロナ禍で、私たちの生活は大きな制約を受けていますが、明けぬ夜はありません。

「意志あるところに道は開ける」の言葉のとおり、明るい未来を切り開くため、共に力強い一歩を刻んでいきましょう！

青年委員会メンバーの横顔



[2022役職]
副委員長
[氏名]
松本 昂大
(まつもと たかひろ)
[所属]
農協労連
(阿南農協職員労組)

連合徳島青年部で副委員長の任に就いております農協労連の松本と申します。

この青年部で活動し始めてからずいぶんと経つためか、初めて参加した時と比べ、身の回りで変化したことも多く、世間の風潮や一緒に活動するメンバー、最近では長年担当していた業務も変わったりしましたが、私自身はこれからも変わらず楽しく活動に参加していきたいと思います。



[2022役職]
事務局長
[氏名]
新居 一真
(にい かずま)
[所属]
自治労
(美馬市職労連)

今年度も引き続き事務局長をさせていただくことになりました、自治労の新居です。自治体職場では、行政ニーズの増大やコロナ対応により入庁後間もない青年層にも重い業務負担がのしかかっています。青年委員会では、同じようにそれぞれの職場で働いている青年の皆さんと意見を交換する中から、健康で安心して定年まで働き続けられる職場を実現するヒントを得られればと考えています。

とはいえ、青年部活動は皆が楽しんで参加できる取組が大事ですし、その中で徳島の魅力をアピールできればとも考えていますので、よろしくお願いします！



[2022役職]
事務局次長(新任)
[氏名]
藤井 一記
(ふじい かずのり)
[所属]
電機連合
(PHC労組)

今期より新しく青年委員になりました、PHC労働組合所属の藤井一記です。

出身は香川県で、組合の執行委員になってまだ1年半の新人です。

このような委員会に所属するのは初めてのこととなり、まだまだ右も左もわからない状況ではありますが、可能な限り幹事会やイベントに参加して、微力ながら自分にできることを一つ一つやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そして、それがこれからの自組織での活動などに活かすことのできるように自分の成長につなげることができればよいなと考えております。これから、1年間よろしくお願いいたします。

青年委員会メンバーの横顔



[2022役職]

幹事

[氏名]

吉岡 大地

(よしおか だいち)

[所属]

全水道

(徳水労)

昨年度に引き続き幹事を務めます、全水道の吉岡です。

2年目となりますが、引き続き、連合徳島青年委員会活動を通じて勉強させていただき、単組での活動に活かしていきます。

単組の方では、引き続き、青年委員長として活動していきます。青年部の構成員数は年々減少傾向にあり、厳しい状況の中ですが、今後も継続した活動ができるよう、単組の活動も頑張ります。

2年目の任にあたるということで、昨年と現状を比べてみますと、新型コロナの感染者数という面では大きく減少したように思えます。それに伴い、各組織、青年委員会としての活動も昨年より活発になっていくものと思われます。

気を緩めずに感染症対策を万全に行いつつ、活発な活動を継続していきけるよう、共に頑張りましょう！



[2022役職]

幹事

[氏名]

恵島 美奈江

(えじま みなえ)

[所属]

U Aゼンセン

昨年に引き続き今年度も幹事を仰せつかりましたU Aゼンセンの恵島と申します。徳島に来て2年が経ちましたが、徳島には美味しい食べ物や美しい自然等、まだまだ県外の方に知られていない魅力が多くあると日々感じております。

さて、今年度も新しい生活様式に基づいた組合活動は続きますが、SNS等も使いながら、青年委員会で知恵を出し合い多くの組合員に参加して頂けるような活動を提案していけたらと考えています。是非、皆さん青年委員会の活動にご参加下さい。



[2022役職]

幹事

[氏名]

畠山 列士

(はたけやま れつし)

[所属]

JAM四国

(日鉄鋼管ファイ

チューブ労組)

私は幹事になって2年が経ちますが、日々ご指導のもと青年委員会で様々なことを勉強させて頂いています。

私自身は普段よく友人と趣味であるアウトドアや旅行、買い物によく出掛けていました。

外出する事は私にとって様々な経験を生み、また日頃の疲れをリフレッシュする良い機会になっています。特に、普段から心掛けている事は『仕事も100%、遊びも100%』です。

回復しつつある社会の中でも、まだまだコロナの影響が多く見られます。

日々、回復に向け努力する方々の少しでも勇気と力を与えられるよう、私自身も、青年委員会としても、しっかりと活動していきたいと思います。

皆様も身近な人を改めて大切に思い、コロナ禍回復に向けて頑張っていきましょう！

青年委員会メンバーの横顔



[2022役職]
幹事
[氏名]
橘 拓
(たちばな たく)
[所属]
J P 労組
(徳島中央支部)

今年度も引き続き幹事をさせていただくJP労組の橘です。
引き続き活動も去年度より積極的にしていきたいと思いますので、今年もよろしくお願い致します。



[2022役職]
幹事(新任)
[氏名]
中藤 徹
(なかふじ とおる)
[所属]
全国一般
(新学社労組)

この度、委員会幹事に就任しました全国一般の中藤です。

私は、新学社という教育図書出版社に勤務しています。全国の小・中学校へドリル、テストなどの教育図書を加工、発送することを主な業務としています。今年八月に北島町に新たな工場が完成し、徳島2拠点となったばかりで大変な時期ではありますが、特約店、学校にご迷惑をかけないように使命感と誇りをもって、日々業務に励んでおります。

組合活動におきましては、春闘討論集会や学習会、一泊研修会など積極的に参加させていただきました。多くの労働者がさまざまな不満を抱えていることを知り、改めて労働組合の大切さに気付かされました。委員会幹事として特に職場におけるハラスメントについて、職場で情報を共有し全ての人が働きやすい職場環境を目指して頑張っております。



[2022役職]
幹事
[氏名]
河村 孝男
(かわむら たかお)
[所属]
全労金
(四国労金労組)

四国労金労組の河村です。昨年に引き続き、青年幹事の任にあたることとなりました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、青年委員会としても、単組としても組合活動を行うことに大きな制限がありました。今年こそはコロナ禍を脱却し、本来の組合活動を行える事を期待しております。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

青年委員会メンバーの横顔



[2022役職]
幹事(新任)
[氏名]
岡久 駿
(おかひさ しゅん)
[所属]
電力総連
(四国電力労組)

今年度より青年委員会で幹事を務めさせていただきます四国電力労組の岡久と申します。

単組では職場の執行委員をしており、過去には青年部長をしていました。生まれも育ちも板野郡藍住町で、現在も地元で妻と4歳になる長女の3人で暮らしております。皆さんにご紹介できるような趣味はあまりないのですが、強いて言えば、入社以来、体重の増加が止まらないため、健康のことも考えて、最近ウォーキングを始めました。その結果、5キロの減量に成功し、このまま新入社員の頃の姿に戻ろうと日々意気込んでおります！

連合徳島青年委員会の活動を通して、たくさんのことを学ばせていただき、単組の活動に少しでも生かしていければと思いますので、今年一年間どうぞよろしくお願いいたします。

退任役員からのメッセージ



[2021役職]
幹事(2020～)
[氏名]
堂免 真也
(どうめん しんや)
[所属]
全国一般
(ナカテツ支部)

2年間という短い間でしたが、連合徳島青年部での活動を通じて色々と学ぶことができました。

労働組合に興味が出て進んで勉強をすることも多くなり、これからも組合活動等に関わっていきたいと思います。

今までありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

連合徳島ユースターNEWS

(2022年度 第2号)



まずは冒頭、去る2022年7月8日に、参議院議員選挙の応援演説のため、奈良県を訪問していた安倍晋三・元内閣総理大臣が、白昼の公衆の面前での銃撃という、俄かに日本国内では信じがたいテロ行為によって命を奪われるという大惨事が起こったことに対し、故人に対する深い哀悼の意と、いかなる理由であろうと、卑劣なテロ行為や暴力は決して認めないという怒りと決意を、青年委員会を代表して表明いたします。

【経過報告】

6月以降の活動についても、新型コロナの感染拡大による影響を余儀なくされている状況下ではありますが、お盆以降の陽性者数の急激な増加も落ち着き、各種イベント等も少しずつ再開され、少しずつ、人の往来や交流も回復しつつあります。その過程で、メンタル面が改善し、みなさんの明るい表情が増えてきていると感じているのは私だけでしょうか。やはり人間の健全な生活には笑顔が不可欠だと思います。

決して油断はできませんが、基本的な感染対策は続けながら、少しずつでも各種活動を活性化しながら、日常を取り戻していければと考えております。

主に夏頃からの内容となりますが、前回のユースターNEWSでの報告以降の活動につき、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2022年9月17日に調査的な位置付けで参加しました「とくしままちなか花ロードProject[花植え]」のレポートを掲載、加えて、青年委員会で今年から取り組んでいる「わが街の魅力発信」についても、少しだけ記事を掲載させていただきましたので、お楽しみください。

引き続き、創意工夫を凝らしながら、歩みを止めることのないよう、青年委員会一同、力を合わせて頑張っていきますので、よろしくお願いいたします！

①「2022年度 連合徳島地方委員会」(2022年6月28日)

- 青年委員会として、宣言のアピール対応を行いました。

②「青年委員会 第2回幹事会」(2022年7月28日)

- 秋季学習研修会の具体的内容等の協議、「わが街の魅力発信」企画の情報交換および進め方の協議、連合四国ブロック青年・女性委員会平和学習への参加検討、SNSを活用した情報発信方針等の協議 ほかを実施しました。

③「とくしままちなか花ロードProject[花植え]」(2022年9月17日)

- 次回以降へつなげる調査的な位置付けとして、徳島市・徳島市水と緑の推進協議会が主催、NPO法人「新町川を守る会」が共催し、各種団体等が関与している同ボランティア活動に参加し、幹事会内で情報共有を図りました。(詳細はレポートを参照ください)

④「青年委員会 第3回幹事会」(2022年9月27日)

- 秋季学習研修会についての協議、年次総会に向けての諸準備およびスケジュールリング、Facebookアカウントの運用方針の確認 ほかを実施しました。

[文責:四国電力労働組合 小畑 文人]

「とくしままちなか花ロードProject[花植え]」参加レポート

去る9/17に、徳島市内で開催されました「徳島市・徳島市水と緑の推進協議会」が主催、NPO法人「新町川を守る会」が共催の「とくしままちなか花ロードProject」に、青年委員会若干名で参加してきました。

当該事業では、5月、9月、1月の年3回は固定で花植えイベントが開催されており、スケジュールとしては、8時に藍場浜公園に集合、1時間強程度の作業となります。

イベント当日は、各種団体、企業、個人と様々な立場の方々、約240名程度の参加があり、場所ごとに9班に分けて、約35,000株のマリーゴールドを次々と花壇に植えていきました。慣れない作業でしたが、参加者間での交流を楽しんだり、街の景観美化に携わる充実感も得られる良い取り組みだと思いました。

【当日の様子ほかを画像で紹介します】



徳島市HP掲載の募集チラシ



続々と会場に集まる参加者



ポットに入った花を植えていきます



作業終わりの参加者の様子



藍場浜公園での開会式の様子



しゃがんだ姿勢での作業はなかなか大変です...(^_^;)

「新町川を守る会」の中村代表の開会あいさつの中で、「自分たちの住んでいる街を良くしていくには、自分たちの手で努力し、行動していくことが大切だ」という言葉は、実践を伴うものである(新町川を守る会の事業も1から何十年もかけて育ててきている)だけに、説得力があり、心に響きました。

この事業も、年3回の花植えイベントがクローズアップされがちですが、日々の草むしりや土の入れ替え等々、地道な作業の継続が大変で、今回の事業を紹介していただいた、NPO法人「新町川を守る会」、「びざん大学」をはじめ多くの方がボランティアで携わっていくことで、事業が成り立っております。

そういった点にも思いを巡らせながら、今後も当該事業に関わっていければと思います。

【報告者: 四国電力労働組合 小畑 文人】

「わが街の魅力発見①」～アクティビティ編～

今年から、青年委員会として初の取り組みとして、「わが街の魅力発見」をテーマに、身近にある魅力的なモノ・コトを、幹事自身の体験を交えて、紹介していきたいと考えております。

今回はアクティビティ編ということで、徳島市内中心部・新町川で体験できる「SUP(スタンドアップパドルリング)」について取り上げたいと思います。

SUPスクール等の運営をされているのが、南内町に拠点を置く「ファンライド徳島」さん。

スクール等の代金には、道具のレンタル代および保険料も含まれており、インストラクターからの丁寧なレクチャーおよびサポートもいただけるため、初心者でも安心して身ひとつで参加可能です。



代表の南里(なんり)さんから丁寧なレクチャー



始めは座った状態でボードの感覚に慣らして...



慣れたらスタンドアップ(意外に安定してます)



最後は仲良くツーショット! (私の顔に余裕なしですが...)

川から見る街並みは新鮮で、非日常の世界を理屈抜きで楽しめます。

また、同行するインストラクターがたくさん写真も撮って、データを提供していただけるので、思い出もしっかり記録してくれます。

決して損はさせませんので、ぜひ一度、体験してみてください!



【報告者: 四国電力労働組合 小畑 文人】

連合徳島ユースターNEWS

(2022年度 第3号)



去る2022年9月27日に、安倍晋三・元内閣総理大臣の国葬儀が執り行われ、その別れを惜しみ、会場外は整然と途切れることなく数kmにもおよぶ献花の列（極めて少数の、場も弁えず、騒音を撒き散らす、非常識な方々もいたようですが・・・）、そして、若年層の有志が8月下旬に立ち上げたデジタル献花プロジェクトには、約1ヶ月の受付期間に50万人以上からのデジタル献花とメッセージが寄せられました。

また、諸外国のリーダーや、様々な立場の方々から、生前の功績を称え、その死を悼むあまたのメッセージが寄せられました。改めて、我が国は偉大なリーダーを失ったのだと実感したのではないのでしょうか。

SNS等に溢れる、そういった様々な声やエピソード等と、マスメディア(特に日本国内)から繰り返し聞こえてくる、安倍晋三氏の像があまりにもかけ離れていると感じるのは私だけでしょうか。

故人を手放して称賛するものでもありませんし、何が正しいかの断定はしませんが、放送法や各種倫理規定等に則った、特定の見方に偏らない、信頼に値する報道姿勢を、各種マスメディアには期待します。

国葬儀の中でなされた菅義偉・元内閣総理大臣の追悼の辞、10月25日の衆院本議会の冒頭でなされた野田佳彦・元内閣総理大臣の追悼演説は、同じ立場を経験した者だからこそ理解できる深い考察と、故人への敬意に満ちた、聞く者の心を打つ素晴らしい内容だったと思います。

青年委員会としても、この「言葉の力」を再認識し、今後の活動の中でも大事にしていきたいと考えています。

【経過報告】

新型コロナの感染状況を見ながら、創意工夫しつつ、各種活動の活性化に努めております。

以下、前回のユースターNEWSでの報告以降の活動につき、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2022年10月9日の「合同研修会(テーマ：犯罪被害がもたらす影響と支援)」、11月26日～28日の2泊3日で開催された連合四国ブロック主催の「平和学習in沖縄」レポートを掲載いたしましたので、ぜひ、ご一読ください。

①「新中小労働対策本部・労働安全衛生センターとの合同研修会」(2022年10月9日)】

●「犯罪被害がもたらす影響と支援」をテーマとし、徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 内海 千種 教授による講演(対面もしくはZoomのハイブリッド方式)をいただきました。

青年委員会からは3名が参加し、研鑽を深めました。[詳細はレポートを参照ください]

②「NPO法人クレエールとの研修方針等に係る打ち合わせ」(2022年10月13日)】

●2022年度の春季学習研修会で講演等をいただいたNPO法人「クレエール」を訪問し、今後の関係性構築および研修方針等につき、原田理事長と打ち合わせを実施しました。

③「青年委員会 第4回幹事会(2022年10月31日)】

●次年度計画を含む今後の活動計画、2023総会に向けてのスケジュール確認等を行いました。

④「平和行動in沖縄(2022年11月26日～11月28日)】

●連合四国ブロックの青年・女性委員21名の規模で沖縄県内各地において開催されました。

[詳細はレポートを参照ください]

⑤「青年委員会 第5回幹事会(2022年11月29日)】

●2023総会に向けての議案書・任務分担・役員体制等の確認、総会以降に実施予定のボランティア活動他の情報連携を行いました。

[文責：四国電力労働組合 小畑 文人]

連合徳島青年委員会 2022 年度 春季学習研修会 受講レポート

〔報告者：連合徳島青年委員会委員長 小畑 文人（四国電力総連）〕

研修内容：「障がいのある人とのパートナーシップでつくるダイバーシティの推進とSDGsの取り組み」

日 時：2022 年 3 月 24 日（木） 18:30～20:30

場 所：特定非営利活動(NPO)法人「C r e e r (クレエール)」(徳島市万代町 5 丁目 71-4)

講 師：NPO法人クレエール 喜多條 雅子 理事

○NPO法人「クレエール」はスペイン語で「信じる」という意味のとおり、障がいのある人が社会の中で自立して働くチャンスを得て、お客さま、地域の人に喜ばれる仕事ができるという可能性を信じて共に努力を続ける、という信念の元、2008 年 7 月に設立されました。

○「クレエール」の理念・ミッションは、『障がい（身体・知的・精神・難病）のある人が、自らの可能性に挑戦し、社会の中で誇りを持って働き、経済的に自立できる賃金を得て、幸せに暮らせる場所をつくること』であり、就労系事業所B型（雇用契約を結ばず作業分の工賃が支払われ、期限の縛りがない）の形式を取りながら、障がいのある人の就労の場として、お弁当製造販売を中心にレストランを運営するほか、IT、縫製、手工芸、芸術、スポーツ活動、地域交流事業などに取り組んでいます。

○喜多條さんは、障がいのある人は、その特性から、社会の中で自立していくためには、一定のサポートが必要であるが、残念ながら、行政・福祉・公的サービスのみでは十分に行き届いておらず、また、そのような状況が広く一般にも浸透していないのが現状であると指摘します。

（「容易に社会の中からこぼれ落ちる存在となり得る」という言葉が印象に残りました）

事業を通じて、障がいのある人に寄り添いながら、そのギャップを埋めるための環境づくり等を目指し、日々、懸命な活動を継続されています。

○喜多條さんが「クレエール」を立ち上げるまでには、母子家庭で育ち、幼いころから様々な生活のご苦労をされたことを原体験として、高校でのボランティア体験・資格取得等で世界に視野を広げた後、信託銀行での勤務経験で事業を継続していく中でのお金の大切さや経営の原点を学び、国際的NPO組織「スペシャルオリンピックス」日本での15年間のボランティア活動を通じた様々な人や組織等との出会いが繋がり、ベースとなっているとのこと。

○その経緯をお伺いする中で、私個人の感覚として、喜多條さんは、人生の分岐点に立った時、必ず「チャレンジする」側の選択をされてきたのだなということ、人や機会との「縁」をととても大切にされてきたのだなということ、それと「1人1人と真摯に丁寧に向き合う姿勢、リアリティを持ったシビアな金銭感覚、アンテナを高くして情報感度を高め、チャンスを見逃さずにアクションに移すセンス、努力を継続する粘り強さとバイタリティー」などが強く印象に残っています。

○喜多條さんは、障がいのある人が働いて自立していくためには、ただ理想を語るだけではなく、一般の市場の中で勝負できる商品・サービスを提供し、しっかりと賃金も支払いつつ、かつ、採算ベースで成立している事業を育て、継続・発展していかなければいけない、また、その活動を続けていく中で、携わる人の個々の特性を理解しながら、生きていく力を育んでいくことが重要であると力強く訴えておられました。

○そういった努力の積み重ねにより、就労系事業所のカテゴリーでは、他県の平均等に大きく水をあけ、破格の条件【さて、どれぐらいの金額でしょうか？】を達成しているものの、一般の就労者の水準には遠く及ばず、まだまだ道半ばであると喜多條さんは仰っておりました。

○喜多條さんは、お弁当製造販売から新たな事業展開を進めていく中で、2018年に「子ども食堂」の事業を開始します。

子どもに対しては無料で食事を提供し、ご家族やスタッフ・ボランティアの方等と触れ合いながら、子どもが安心して過ごせて、社会との接点ができ、人間らしい生活と学ぶ権利が守られる、『子供の居場所づくり』の社会貢献の視点が、同事業には色濃く反映されています。

手作り感のある、温かい雰囲気の中で、地産地消の食材にこだわり、スーパーや生産者から賞味期限の近づいた食品や規格外の野菜等の提供を受け、材料として活用することでフードロスの削減にもつながります。

来所される方はもちろん、運営に携わるスタッフや様々な立場・年代のボランティアの方なども含め、みんなが幸せになる素晴らしい取り組みであるという当事者の声が多く聞かれています。

毎月第4土曜日には、楽しいイベントも開催されており、ボランティアの募集も随時なされているとのことです。ぜひ、1度、参加してみたいなと思いました。

○そして2020年には、「子ども食堂宅食便」の事業を開始します。

「子ども食堂」に来たくても来所することができない家庭を実際に訪問することで、そのニーズに応えようとするものですが、初日から困窮する家庭の様々な問題に直面することになります。

ただ、始めは訪問しても居留守が使われたり、そっけない対応をされることもあったそうですが、フェイス to フェイスの対話を継続していくことで、多くの信頼を得るに至り、そのことにやりがいを感じるといった声も多く聞かれているとのことです。

○「クレエール子ども食堂」は、そういった取り組みが高く評価され、日本財団『子どもの第三の居場所助成事業』に選ばれ、更に多くの人や団体、地域と関わりながら、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」をつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指し、2021年10月より更にステップアップした活動を展開していくとのことです。

（日本財団のホームページ等でも、詳しく紹介されていますので、ぜひ覗いてみてください）

非常にまとまりのない文面とはなりましたが、この度、貴重な学びの機会を与えてくださった喜多條さんに、感謝の気持ちをお伝えすると共に、この学びを周囲に伝えていくことと、そして、クレエールの活動に協賛の意を示し、連合徳島青年委員会として、より一層の連携を図っていくことをお約束して、結びの言葉といたします。本当にありがとうございました。共に歩んでいきましょう！

2022 秋季合同学習会レポート

日 時：2022 年 10 月 9 日(日) 10:00 ~ 11:20

場 所：ふれあい健康館 第 2 会議室（Zoom による Web とのハイブリッド形式）

テーマ：「犯罪被害がもたらす影響と支援」

講 師：徳島大学大学院社会産業理工学研究部 内海 千種 教授

【講師紹介】

○内海先生は、大阪府で 2001 年に起こった小学校での無差別殺傷事件への臨床心理士としての関わりを契機に犯罪被害に関する研究に携わる。その後、ＪＲ福知山線脱線事故の被害者のケアに中心となって携わる。

○2008 年より徳島大学での勤務。研修その他を通じての連合徳島との関わりは今年で 6 年目となる。

○2020 年より「徳島県犯罪被害者等支援条例検討委員会」の委員長を務め、同条例は 2021 年 4 月 1 日より施行され、現在は「徳島県犯罪被害者等支援審議会」の委員を務めている。

【講演内容について(概略)】

【キーワード：「再被害」、「二次被害」の防止】

①「徳島県犯罪被害者等支援条例」の紹介

基本理念の中で、「再被害」、「二次被害」の防止について定め、「二次被害」の防止については、県民および事業者の責務として規定している。

徳島県は残念ながら、他県と比較して制定が遅れており、これから市町村条例等へ展開し、支援等の内容の充実を図っている状況である。

この「二次被害」とは、周囲の言動、司法や医療、精神保健その他のシステム（マスコミの取材等も含む）の中で、被害者が再び傷つけられることと定義されている。

悪意なく、言動による二次被害を起こしてしまう背景として、様々な事象に対する自身の意見や考え方の傾向等が影響をおよぼすことがある。

（講演での事例：裕福な装いの医者への強盗、露出の多い服装の女性への性犯罪）

※被害者にも責任があるのでは、と言った言動・態度を無意識に取っていないか？

それらの傾向等を知り、基本的な心理学等の知識を得ることは、その防止に有効である。

②犯罪被害後の心身の変化

●犯罪被害後にみられる反応

（心理的）恐怖、不安、怒り、イライラ、悲しみ、抑うつ、否定的考えなど

（身体行動上）不眠、食欲不振、頭痛、持病の悪化、お酒と薬物、性的関係の問題など

（被害者に特有）罪悪感[サバイバーズ・ギルト]、羞恥心、無力感など

※以上は、いずれも異常事態における正常反応であるが、反応が大きい場合、長く継続する場合には PTSD 等の疾患の恐れがあるため、注意が必要。

（ASD[急性ストレス障害]・PTSD[心的外傷後ストレス障害(1 ヶ月以上の継続)]関連）

再体験[フラッシュバック含む]、覚醒亢進、回避、解離

◇再体験：意図せずに、原因となった事象が当時の感覚を伴って再現される。例として、交通事故体験者が急ブレーキの音を聞いて、急激に動悸が激しくなるなど。

◇覚醒亢進：安全感・安心感が崩れることから常に緊張状態となり、集中力の低下等を伴う。

◇回避：各種症状等が引き起こされることの恐怖から、物事に消極的になる。

◇解離：①感覚・感情の麻痺、②現実感の喪失・離人感、③心因性健忘などを伴う。

感覚・感情等の落差が心理的負担となることから、極度にフラットな態度となる。

この場合、表面上、被害者の態度が淡々としているからと言って、必ずしも平気な訳ではないことに注意が必要であり、二次被害につながりやすい症状である。

●被害別のおこりやすい反応

[傷害・強盗被害者]：広場恐怖(見知らぬ人に対する緊張、安心できない場所への強い恐怖)

[交通事故被害者]：乗り物恐怖や運転恐怖、罪悪感(過剰な自責感を伴うことも)、抑うつ

[性暴力被害者]：解離症状、否定的な考え(自責感情、自分には愛される価値がないなどの考え)

※強姦被害者の7割に強直性不動(恐怖や心理的な衝撃等に起因する極度の緊張のため、体が動かなくなること)が認められる。

◎これらは、事象に対する当然の生体反応である。「なぜ」、「どうして」の問いかけは厳禁！

【「被害者にしてはいけないこと」、「注意が必要な言葉かけ」については後述を参照】

③犯罪被害後の支援など

昨日まで何もなかった自分に、突然、心理的な面を含む急激な変化、たくさんの手続等を伴う公的機関等他との関わりを要する状況が訪れる。そんな場合の相談窓口等について紹介する。

「徳島被害者支援センター」(公安委員会の認定を受けた民間団体)

「ホンデリング」：本の寄付により、犯罪被害者の支援につなげることができる取り組み

以 上

「平和行動 i n 沖縄」参加報告書
(報告者：連合徳島青年委員会 青年委員長 小畑 文人)

2022 年 11 月 26 日～28 日の 2 泊 3 日で、連合四国ブロック「平和行動 i n 沖縄」に参加してきた。当該行事は戦後 70 周年の 2015 年に企画されていたが、台風の影響で中止となっていたため、実に 7 年越しでの開催となった。

その当時も当該研修に参加予定だったことを思い出し、そんなに月日が過ぎたのだなと感慨深いものがあった。

さて、事務局を含め、4 県から 21 名の参加者(徳島からは 4 名)によって開催された行事は、大きく分けて、4 箇所の訪問および見学等がメインであった。

- ①対馬丸記念館
- ②平和学習コザまち歩きおよび K O Z A 講座 (旧キャンプ・コザ[現在の沖縄市])
- ③黄金森・旧陸軍病院壕跡
- ④系数アブラチガマ

①では、1944 年 8 月に国の指示による集団疎開のため、約 1800 名が乗船した貨物船・対馬丸が米潜水艦に撃沈され、約 8 割の命が失われた対馬丸事件について学んだ。何も知らされぬまま、多くのいたいけな子供たちの命が失われ、また、生き残った者の心にも大きな暗い影を落としていることに、非常に心が痛んだ。

②では、米軍占領下・統治時代の面影を残す建物等が立ち並ぶ中、現在は、143 千人・57 ヶ国の人々が暮らす多文化が混在する、嘉手納基地に隣接する街並みを散策しながら、米軍基地と経済や生活が密着し、切っても切り離せない、複雑な関わりについて、ガイド他の話などから学んだ。マスメディア等の一元的な報道では決して知ることのできない現実の一端に触れることができたと思う。

③および④では、太平洋戦争の最終段階、1945 年 3 月下旬以降の沖縄戦において、4 月 1 日に沖縄本島中部に上陸し、圧倒的な兵力で南下を続ける米軍に対し、追い詰められていく日本兵および住民の様子が、現存する遺構や、ガイドの言葉等を通じて、圧倒的なリアリティを持って心に迫ってきた。劣悪な環境の中、非人間的な体験を余儀なくされた当事者の心情を思うと、大きな鉛を飲み込んだような思いであった。

アブラチガマの漆黒の暗闇を体験した後、ガイドからの「死者は数字で図るものではない、1 人 1 人の顔を持った人達の気持ちに思いを馳せたい」という言葉は心に残っている。

今回の平和行動を経て、戦争に巻き込まれた方々の悲劇や悲哀を生々しい証言や資料等から少しだけでも感じ取ることができた。悲惨な戦争を繰り返さず、平和を維持していくために、政府や人任せではなく、性善説で思考停止に陥るのではなく、私たち 1 人 1 人が何をできるのか、何が大事なのかを考え、行動に移していかなければならないと強く感じた。

この度の体験を、今後の人生に活かし、周囲にも伝えていくことを誓い、結びとしたい。

以 上